

1. 科目名 (単位数)	日本語学 I (音声・音韻) (2 単位)	3. 科目番号	EJJP2121
2. 授業担当教員	佐藤 仁美		
4. 授業形態	講義と演習	5. 開講学期	春期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	学習者の発音を指導するためには、日本語の音声についての知識が必要である。本講座では、日本語の音声についての一般的な概要を行い、日本語の音声がどのように産出されているのかについて学ぶ。また、演習では実際に発音し、日本語教育におけるモデルとなる音声について理解する。		
8. 学習目標	1) 日本語の音声の仕組みを理解する。 2) 日本語学習者の母語について、苦手とする音を知る。 3) 日本語の音声をコントロールし、産出できるようになる。 4) 日本語学習者の発音上の問題点を理論的に指摘できる。 5) 日本語学習者の発音を矯正できる。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	・各回の授業でワークシートを配布する。ワークシートには授業の進行に合わせて書き込む部分と、事後学習で改めて理解したことや、まだ理解できていないこと、自分の考えなどを書く部分がある。次回の授業開始時までまでに完成させ、提出すること。 ・第14回に実施する課題読み発表については、内容・施方法・発表をするためには授業にどう参加していけばよいかなど初回の授業時に説明する。		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】高見澤孟監修『新・はじめての日本語教育 1 増補改訂版』アスク出版、2016。 【参考書】鹿島央『日本語教育をめざす人のための基礎から学ぶ音声学』スリーエーネットワーク、2002。 猪野塚恵美子・猪塚元『日本語の音声入門』パベルプレス、2003。 金田一春彦監修『新明解日本語アクセント辞典 第2版』三省堂、2014。 松崎寛、河野俊之『日本語教育 よくわかる音声』アルク、2018。 小原原義朗、河野俊之『日本語教師のための音声教育を考える本』アルク、2009。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. 日本語の音声の仕組みを理解し、説明できるか。 2. 日本語学習者の発音をどう矯正したらよいか説明できるか。 ○評定の方法 授業への出席や日常の受講態度、課題・発表、期末試験等を総合して評価する。 1 授業への出席・態度 総合点の30% 2 課題・発表 総合点の30% 3 期末試験 総合点の40% なお、本学規定により、3/4以上の出席が確認できない場合は単位修得を認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	音声・音韻とは何か、日本語の「音」とは何か、今まで何気なく聞いたり発したりしてきた「音」について学ぶ。具体例や課題を実施しながら基礎的な内容を理解しやすいよう進めていく。音声・音韻に関して日本語教育の現場にはどのような課題があるのか、その課題はどのように解決できるのか、共に考えたい。		
13. オフィスアワー	初回授業で周知する。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	オリエンテーション 第2章 日本語の音声 1. 日本語の「音」	事前学習	p. 24 の[五十音表]を声に出して読む。発音が難しい/簡単な音に印を付け、どうして難しい/簡単なのか考える。
		事後学習	「日本語の音」について、ワークシートを完成させながら復習し、学習を深める。
第2回	2. 日本語の音節	事前学習	pp. 25~28 を読み、日本語の音節について要点を理解する。太字で書かれている言葉の読み方を調べておく。
		事後学習	「日本語の音節」について、ワークシートを完成させながら復習し、学習を深める。
第3回	3. 日本語のリズム	事前学習	pp. 29~30 を読み、日本語のリズムについて要点を理解する。自分の名前は日本語で何音節になるのか考えておく。
		事後学習	「日本語のリズム」について、ワークシートを完成させながら復習し、学習を深める。
第4回	4. 日本語の母音	事前学習	pp. 31~32 を読み、日本語の母音について要点を理解する。鏡で自分の口を見ながら p. 31 の[表 2]母音を1つずつ発音し、口の形を観察しておく。
		事後学習	「日本語の母音」について、ワークシートを完成させながら復習し、学習を深める。
第5回	5. 日本語の子音 I 調音点 II 調音方法	事前学習	pp. 32~35 を読み、日本語の子音「調音点」「調音方法」について要点を理解する。p. 33 「[図 2]発音器官の名称」のイラストを自分

			でも描いてみる。
		事後学習	日本語の子音「調音点」「調音方法」について、ワークシートを完成させながら復習し、学習を深める。
第6回	5. 日本語の子音 Ⅱ 調音方法 Ⅲ 有声音と無声音	事前学習	pp. 34～37 を読み、日本語の子音「調音方法」「有声音と無声音」について要点を理解する。p. 36[表 3]で、対になっている音(例: 「ば」と「ぱ」、「ひ」と「や」)を交互に発音し、違いを確認しておく。
		事後学習	日本語の子音「調音方法」「無声音と有声音」について、ワークシートを完成させながら復習し、学習を深める。
第7回	5. 日本語の子音(復習と確認) 6. 日本語の半母音 7. 日本語の「音素」	事前学習	pp. 37～39 を読み、日本語の半母音、音素について要点を理解しておく。p. 38「考えてみましょう2」を実施する。
		事後学習	「日本語の半母音」「日本語の音素」について、ワークシートを完成させながら復習し、学習を深める。
第8回	7 日本語の「音素」(異音) 8. 母音の無声化	事前学習	pp. 39～40 を読み、日本語の異音、母音の無声化について要点を理解する。p. 40①と②の例を声に出して読み、確認する。
		事後学習	「日本語の音素(異音)」「母音の無声化」について、ワークシートを完成させながら復習し、学習を深める。
第9回	9. 日本語のアクセント Ⅰ アクセントと意味の弁別 Ⅱ アクセントと語のまとまり	事前学習	pp. 40～42 を読み、日本語のアクセント「意味の弁別」「語のまとまり」について要点を理解する。p. 42「確認問題5」を実施する。
		事後学習	「日本語のアクセント」について、ワークシートを完成させながら復習し、学習を深める。
第10回	9. 日本語のアクセント Ⅲ 日本語のアクセントの型 Ⅳ 日本語のアクセントの特徴	事前学習	pp. 42～43 を読み、日本語のアクセントの「型」と「特徴」について要点を理解する。pp. 42～43①～④の例を声に出して読み、確認する。
		事後学習	「日本語のアクセント」について、ワークシートを完成させながら復習し、学習を深める。
第11回	10. 日本語のイントネーション(音調)	事前学習	p. 44 日本語のイントネーション(音調)を読み、要点を理解する。①～③の例を声に出して読み、確認する。
		事後学習	「日本語のイントネーション(音調)」について、ワークシートを完成させながら復習し、学習を深める。
第12回	11. 日本語の音声指導 課題読み発表の練習	事前学習	pp. 45～50 を読み、日本語の音声指導について要点を理解する。
		事後学習	「日本語の音声指導」について、ワークシートを完成させながら復習し、学習を深める。
第13回	12. 日本語教師の音声訓練 課題読み発表の練習	事前学習	pp. 50～58 を読み、日本語教師の音声訓練について要点を理解する。
		事後学習	「日本語教師の音声訓練」について、ワークシートを完成させながら復習し、学習を深める。
第14回	課題読み発表	事前学習	第12回と第13回「課題読み発表の練習」の内容に従って、課題読み発表の練習をする。
		事後学習	課題読み発表を振り返りながらワークシートを完成させる。 (次回授業時に使用する。提出はしない。)
第15回	「第14回課題読み発表」の振り返り 質疑応答 既習項目の要点復習	事前学習	ワークシートを使って、これまでの授業で学んだ内容を復習し、わからないことがあれば質問できるように準備しておく。
		事後学習	ワークシートをよく見直し、試験のための総復習を行う。
期末試験			